

第630号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2021年9月16日
発行責任者 喬木村公民館長
市瀬 徹
編集責任者 公民館編集部
仲田 久志
印刷 龍共印刷株式会社

たかぎスポーツクラブでは、第二・四土曜日、九時半〜十一時にアスポ会議室で絵かきクラブを開催しています。描くのは水彩画で、野に咲く花や花壇に咲いている花、また自分が描きたい野菜を持ってきたり、恐竜が載っている本を持って来て描いたり、天気の良いと外に出て風景を描いたり、と一時間半の活動時間を自由に使い、思い思いの絵を描いています。講師の若林

先生は、東京や名古屋で個展を開いたこともあり、現在もコンクールに出典したりと、ご自身も活発に活動をされています。
昨年はアスポのコミュニティ広場に、若林先生と絵かきクラブのみなさんの作品を展示しました。今年も十月の下旬から展示を計画しているのぜひ、ご覧ください。
絵かきクラブは十月から、第一・三土曜日・十三時

たかぎスポーツクラブ
絵かきクラブ、月曜クラス新設します。



「公民館平和学習会第50回記念講演会(兼楽遊塾第3講座)」

タテタカコ × 安田菜津紀
ライブ & 講演会 開催!

講演会の延期が決まって一年。平和学習会五十回目の記念講演会は安田さんは東京から、タテタカコは三年生のみが入場した喬木中学校の体育館からオンラインで開催されました。多感な中学生にも「平和」を考えるきっかけになってもらえたのではないのでしょうか。
安田さんには「東日本大震災から十年、命を見つめて」という演題で話して頂きました。安田さんは現地に何度も足を運び、そこで暮らしている人たちのその時の声や思いを拾いながら、切り取った写真を提示します。時に代表の中学生とやり取りしながらの進行から一人一人の生徒さんの声の深いところにまで目を向ける優しさが伝わってきます。

学びを止めない

多くの犠牲者と、今なお困難な生活の中にある方々の体験とは、個別のものであり、ひと括りには出来ないし、まして一言では語れないこと、そんなことを思いました。

タテタカコのライブはその場にいた人しか伝わらないものも多くあるでしょうが、色合いも深みもある様々な感情を、ピアノ、声、言葉、表情で表現されている様に感じ、その世界に引き込まれるようでした。

企画から一年越し、コロナ禍でも「学びを止めない」という思いは形になりました。開催にご尽力下さった皆様への感謝の思いでいっぱいです。
(平和学習会実行委員)

近くに感じた
オンライン講演会

九月四日タテタカコ × 安田菜津紀ライブ & 講演会が行われました。本来ならば

半〜十五時、アスポ会議室で月曜クラスを新設予定です。講師の先生は同じ若林先生。5名以上で開催になるので、絵を描くことが好きで平日の昼間時間があるかた、お友達を誘って絵かきクラブに参加しませんか? 十月からは入会時に支払いたく、クラブ年会費も半額になります。ぜひこの機会に絵かきクラブに入会しましょう。

スポーツクラブでは満員の活動以外、他のどの活動もそれぞれ一回、無料体験ができます。気になる活動があればぜひ体験してみてください。詳しい内容はス

くください。詳しい内容はス



<活動の様子>



<昨年の展示>

スポーツクラブ事務所までお電話ください。
(033-5570)

<絵かきクラブについて>

Table with columns: 開催日, 場所, 会費について. Includes details for 2nd/4th Saturdays and 1st/3rd Mondays.

第六十六回全国高等学校弓道大会(七月二十九日〜八月一日開催)に女子団体の部に出場する内山心結さん(飯田女子高三年・帰牛原)の激励会が七月十二日に行われ、村及び村体育協会から激励金が授与されました。



激励を受ける内山さん(中央)

内山さんは、六月五日〜六日に行われた長野県総合体育大会、続いて六月十九日〜二十日に行われた第五十一回北信越高等学校弓道大会、女子団体の部で優勝し、新潟県上越市で行われる全国大会に出

内山さん弓道全国大会出場

場することになりました。大会では一回戦で花巻北高校(岩手)と対戦し、十四対十三で惜しくも敗退しました。

パラアスリートの練習環境は整っていない。個人種目はもちろんだが、チーム種目は仲間と集まって練習することも大変だと思う。でも、それを乗り越えて競技力を高めようとするバイタリティーには感服させられる。今後、ユニバーサルデザインの理念がさらに浸透し、障害者の運動環境、パラアスリートの練習環境が整ってほしいと願っている。(館長)

中学生の感想

<安田菜津紀さん講演会>

今まで平和とは戦争をしないことだけだと思っていましたが、今日の安田さんの東日本大震災についての講話を聞いて、平和とは戦争をしないことだけではなく災害がないこと、つまり日常生活が送れていること、いつものことなんだということに気付かされました。でも、災害は防ぐことができないので、災害が来たときに自分の命を自分でどう守るか教訓を活かしつつ、考えていきたいなと思いました。(2年)

<タテタカコさんライブ>

まず、タテタカコさんの声は芯があってとても力強いのにすごく透き通ったきれいな声をお持ちで、その声がタテタカコさんの個性的な世界観が溢れ出ている楽曲と合わさって思わず鳥肌が立ちました。確かに聞こえてきたのはピアノの音と歌声だけなのに、もっと大人数のバンドの演奏を聞いているくらいというか、それ以上の迫力がありました。タテタカコさんの世界観を味わえるライブでとても楽しかったです。(3年)

「と津波の写真撮っていたお義父様の言葉など、衝撃的なことばかりでした。当たり前前の生活のすばらしさ、自分の命は自分で守ることなど改めて考えさせられました。十五分の休憩の後には、タテタカコさん

深々としたお辞儀から始まり、歌いながらの自己紹介「気ままにお付き合いください」とほんわかムード。リラックスしたひとときを過ごせました。会場で聴いている中学三年生は、いろいろな事を感じることが出

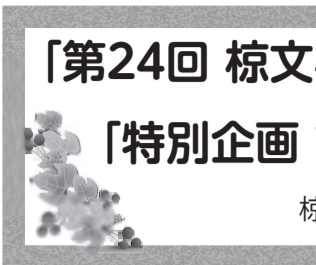
来ただろうなと羨ましく思いました。オンラインで距離は離れていましたが、画面を通してとても近くで感じることができました。素晴らしい講演ありがとうございました。(教養部)

あの時

過去最多のメダル獲得で沸いたオリンピックに続き、パラリンピックが無観客で開催されている。新型コロナウイルスの感染拡大で開催できるか心配したが、パラアスリートたちの躍動する姿を見ていると、開催出来て本当によかったと私は思っている。

# 「第24回 椋文学夏期講座」は来年度に延期、 「特別企画 吉崎正巳さし絵展」のみ開催

椋鳩十記念館・記念図書館長 菅沼利光



への延期を余儀なくされました。今回の講座は、「椋鳩十とさし絵画家たち」をテーマに、いぶき彰吾のペンネームで『千曲川はんらん』や『てんとくんのさし絵』など、児童文学作品、ルポルタージュ作品を執筆されている、黒姫児童館館長 北沢彰利先生にご講演いただく予定でした。

また、この講演に合わせ、椋文学夏期講座特別企画として、椋鳩十作品の挿絵を描いた吉崎正巳画伯の『子ギツネのおかあさん』の挿絵展を行うことも決まっています。『子ギツネのおかあさん』の挿絵は、黒姫児童館が所蔵しており、お借りできることになっていのです。

八月十八日、信濃町黒姫児童館にゆかり、挿絵をお借りして来場しました。十九日、記念館ギャラリーには、展示し終わったその日、「椋文学夏期講座」の来年度への延期が決まったのです。

北沢彰利先生のご講演と一緒に、この「椋文学夏期講座特別企画 吉崎正巳さし絵展」は、八月二十二日、九月十四日まで行いました。吉崎正巳画伯が、椋鳩十の物語の挿絵を描いたり、装丁したりした本は、『椋鳩十全集 月の輪グマ』（装丁・挿絵）、『椋鳩十全集十七 モモちゃんとかあね』（装丁・挿絵）、『椋鳩十えぶん二十四 栗野岳のぬし』（挿絵）など、十数冊に上ります。

『子ギツネのおかあさん』の挿絵を見ていたら、「温かい色調だなあ」と思いました。よく見ると、色鉛筆やコンテなどで線を描き、水彩で淡く色づけしています。「挿絵から温かい感じが伝わってくるのは、この描き方だからだ。野犬から逃げようと、必死に知恵を出し、子ギツネを守る母ギツネの思いが、挿絵の色調で表現されているんだ」と、思いました。

コロナ禍の中、感染予防をしっかりと、吉崎正巳画伯の挿絵を鑑賞していただいた皆様に、心より御礼申し上げます。来年度、北沢彰利先生のご講演が、予定どおり行うことができず、すように。祈るばかりです。

七月号では、SDGsについての全体的な枠組みを紹介しました。十七の目標は、一から十六までの目標と、その目標を達成するための手段として十七番目に

焼却処分は、CO<sub>2</sub>の排出を伴います。地球温暖化への要因となるのです。温暖化により海面の温度は上昇します。海水面の温度上昇は上昇気流をもたらし、低気圧を発生させ、そしてそれが、現在あちこちで見られる局地的豪雨と災害の要因の一つとなるのです。それぞれの事柄が、全く別のものであると考えがちですが、ひとつひとつの要素が、他の事象に影響を与え、または、つながっているという事も注目すべき点です。環境問題だけでなく、経済や社会問題にまで及んでいるという事です。

このままでの消費者は、買うだけ（消費するだけ）ですが、リユース・リサイクル業界の発展により、いらなくなった物やまだ使える物を捨てるのではなく、売って誰かに有効に使ってもらうことにより、物の価値の存続が実現されています。

コロナ感染が全国的に広がったお盆明け。八月二十日には、長野県全県の感染警戒レベルが五に引き上げられ、「医療非常事態宣言」を命を守る「一か月」が始まりました。



途切れることなく、二十三回続いていた「椋文学夏期講座」も、来年度へ

七月号では、SDGsについての全体的な枠組みを紹介しました。十七の目標は、一から十六までの目標と、その目標を達成するための手段として十七番目に

焼却処分は、CO<sub>2</sub>の排出を伴います。地球温暖化への要因となるのです。温暖化により海面の温度は上昇します。海水面の温度上昇は上昇気流をもたらし、低気圧を発生させ、そしてそれが、現在あちこちで見られる局地的豪雨と災害の要因の一つとなるのです。それぞれの事柄が、全く別のものであると考えがちですが、ひとつひとつの要素が、他の事象に影響を与え、または、つながっているという事も注目すべき点です。環境問題だけでなく、経済や社会問題にまで及んでいるという事です。

このままでの消費者は、買うだけ（消費するだけ）ですが、リユース・リサイクル業界の発展により、いらなくなった物やまだ使える物を捨てるのではなく、売って誰かに有効に使ってもらうことにより、物の価値の存続が実現されています。

こういった個人の行動（使う責任）や企業の取組み（作る責任）が広がることは、経済的な観点だけでなく、環境配慮の観点からも有効です。サステイナビリティ意識の高まりもあり、今後より一層重要になっていくと思われれます。まずは一人から、身近な

新型コロナウイルス感染症は拡大の一途。一方で、世の中の出来事には左右されず、自然界は実りの秋をむかえている。農家の皆さんが丹精込めて育てた果物や山の恵みの数々は、私達の心を和ませてくれる。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。

## たかぎ短歌会 葉月歌会詠草

道すがら見れば稲丈すこやかに伸びきて酷暑の空冴ゆる  
なり 木林 睦枝  
落ちさうでおちぬ葉が葉の先にあかり灯せば一斉に光る  
小椋 りよ  
昨日の予感当りてカラス等にスイカやられしと夫の告げ  
来る 内山 和子  
東京五輪猛暑の夏もコロナ禍もしばし忘れてテレビにく  
ぎ付け 市瀬 准子

仕事終え何時もの山道軽トラで蟬の初鳴き聞きつつ下る  
知久 美子  
横井戸に朝採りの胡瓜浮かべ置きカリッパリッど幼日の  
内山 貴子  
味 土砂崩れ飛龍のごとく坂下り熱海の街は飲み込まれゆく  
田中 妙子  
稲の穂のポツポツ出はじめ息子らの刈りし畦道今日も見  
木下 寿子  
回る 咲き継ぎて散りて辺りを明るくす凌霄花の幾百の花  
元島 康子  
早やばやと東京の娘らに桃送る今年も催促されぬ前にと  
関島 春子  
野の良猫の奴わが菜園に用を足すよく均したる場所を選び  
福澤 亀人

## お知らせ 武田信玄狼煙会



上記のように武田信玄の狼煙を再現します。今年も武田信玄生誕500年の記念の年にあたり、根羽村柚路峠から甲府の躰躰が崎館まで、目視で狼煙をリレーします。村民のみならず、現地で、あるいは狼煙の確認できるポイントで狼煙を見ていただき、戦国時代に思いを馳せていただければ

◇日時  
十月三十日(土)  
午前十時二十分現地集合(雨の場合 翌日同時刻)  
◇場所  
富田 城山・加々須 茶臼山  
◇内容  
のろし作り体験・狼煙や地域の歴史の学習・他地域の狼煙の確認

新型コロナウイルス感染症は拡大の一途。一方で、世の中の出来事には左右されず、自然界は実りの秋をむかえている。農家の皆さんが丹精込めて育てた果物や山の恵みの数々は、私達の心を和ませてくれる。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。

ひと口にゴミと言っても、その有りようでゴミ(廃棄物)なのか、それとも資源(有価物)なのか、分かります。環境問題だけでなく、経済や社会問題にまで及んでいるという事です。

焼却処分は、CO<sub>2</sub>の排出を伴います。地球温暖化への要因となるのです。温暖化により海面の温度は上昇します。海水面の温度上昇は上昇気流をもたらし、低気圧を発生させ、そしてそれが、現在あちこちで見られる局地的豪雨と災害の要因の一つとなるのです。それぞれの事柄が、全く別のものであると考えがちですが、ひとつひとつの要素が、他の事象に影響を与え、または、つながっているという事も注目すべき点です。環境問題だけでなく、経済や社会問題にまで及んでいるという事です。

このままでの消費者は、買うだけ（消費するだけ）ですが、リユース・リサイクル業界の発展により、いらなくなった物やまだ使える物を捨てるのではなく、売って誰かに有効に使ってもらうことにより、物の価値の存続が実現されています。

新型コロナウイルス感染症は拡大の一途。一方で、世の中の出来事には左右されず、自然界は実りの秋をむかえている。農家の皆さんが丹精込めて育てた果物や山の恵みの数々は、私達の心を和ませてくれる。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。

## 編集後記

新型コロナウイルス感染症は拡大の一途。一方で、世の中の出来事には左右されず、自然界は実りの秋をむかえている。農家の皆さんが丹精込めて育てた果物や山の恵みの数々は、私達の心を和ませてくれる。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。

大都市部で、便利さのみを追求する都会的な生活をするのか、多少の不便はあるが田舎に住み、幾ばくかの土地を持ち、米や野菜を自給自足する生活を求めるのか。今こそ地方での暮らしを再考する好機であるのかもしれない。